

ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組 講座シリーズ「基礎から学ぶ仙台防災枠組 for World BOSAI Forum」を開催しました(2017/7/9)

テーマ：仙台防災枠組、世界防災フォーラム、国連世界防災会議
場所：TKP ガーデンシティ仙台

「基礎から学ぶ仙台枠組 for World BOSAI Forum」が仙台市と災害科学国際研究所の主催により7月9日に開催され、当研究所の今村 文彦 所長（教授・災害リスク研究部門）と泉 貴子 特任准教授（情報管理・社会連携部門）が講演を行いました。この講座は、昨年からの始まり、今年が第2回目の講座シリーズとなります。企業、SBL（仙台市地域防災リーダー）、自治会などから100名を超える方々が参加され、仙台防災枠組が地域の防災活動にどのように関連しているのかなどについて学んでいただきました。

仙台防災枠組は、2015年に仙台市で開催された国連世界防災会議において、187カ国により採択されました。2015-2030年までの15年間に災害への備えを強化するために各国がとるべき防災対策の指針となります。今村所長からは、仙台防災枠組に書かれている7つの「グローバルターゲット」には、増加したいもの（防災戦略をもつ国、国際協力、データへのアクセス）と減らしたいもの（人的被害、影響人口、経済被害、社会インフラへの被害）が存在し、こうしたターゲットを達成するためには、様々なステークホルダーの協力、我々の目標設定、モニタリング（目標の再確認）が重要であることが指摘されました。また、こうした防災活動に関わっている様々な人々が世界中から集まり、情報共有や議論を行う場として、11月に仙台市で開催される「世界防災フォーラム」が紹介されました。

泉特任准教授からは、仙台防災枠組が世界を対象にした指針であり、すでに日本で行われている様々な防災活動を海外と共有することで、さらに日本はこの枠組みの実現に貢献できることが示されました。政府、学術、企業、コミュニティが、女性・子供・高齢者・障害者などの目線にたった防災対策を実現し、地域の防災活動を支援し、情報の提供や技術開発、また防災知識の向上など、それぞれの役割を果たし、連携することによって、さらに活動を強化することができることが指摘されました。

参加者からは、「仙台防災枠組の概要を理解できた」「防災枠組が地域で行われている防災活動と繋がっていることを学んだ」などの感想をいただきました。この講座の応用編が、8月6日（日）に当研究所1階多目的ホールにて開催されます。すでに、今回の講座に参加された方から、応用編への参加申し込みも多数いただきました。応用編では、3名の市民の方々にそれぞれの地域防災活動について発表いただく予定です。



今村所長の発表



泉特任准教授の発表